

エコツーリズム推進モデル事業（平成 16～18 年度）

1. 事業の概要

地域においてエコツーリズムの仕組み作りを実際に行うとともにエコツーリズムに取り組む他の自治体等への普及を目的とし、平成 16 年度から 3 ヶ年かけて 13 地区の支援を実施。

本事業のモデル地域は①豊かな自然の中での取組、②多くの来訪者が訪れる観光地での取組、③里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取組に区分。

2. モデル事業の取組事例

（1）屋久島地区でのモデル事業

○対象区域 屋久島全域

○現況・計画

約 10 年前からガイドツアーが始まり、約 100 名のガイドが活動。登山、沢登り、カヌー、ダイビングなど。特定の場所に集中することなく、里山地域を含めた屋久島全域の資源を活用した活動プログラムの開発と展開。ガイド間の連携、情報発信のあり方の検討など。

○選定理由

約 10 年前から自然ガイドツアーが盛んとなり、約 100 名ともいわれるエコツアーガイドがすでに活動し、地域振興にも大きく貢献しているところあるが、エコツーリズムのルールが明確でなく、一部地域への集中などの課題がある。多数の既存ガイドが活躍する地域でのルールの策定と共有が必要。

○モデル事業のポイント 利用の集中による負荷の軽減策の具体化

○参考

平成 16 年 9 月に屋久島地区エコツーリズム推進協議会が設立され、ガイドの登録・認定制度の立ち上げ、保全と利用の調整等エコツーリズムの推進に取り組んでいる。

（2）小笠原地区でのモデル事業

○対象区域 海域を含む小笠原全域

○現況・計画

ホエールウォッチング、ガイドツアー、植生回復ボランティアツアー、南島及び母島石門一帯のエコツアーなどを実施。属島探索、史跡・戦跡などを活かしたツアープログラムの開発。シンポジウムの開催、人材養成など。

○選定理由

東京都が南島と母島石門の 2 地区について、利用調整とガイド同行の義務化を柱にした都版エコツーリズムを実施。村は 2 地区にとどまらず、エコツーリズムを広く捉えて村における地域振興の最重要課題としたい考え。国土交通省による調査等も行われている。エコツーリズムの考え方を地域振興の基本に置く先進地として、都が始めている一部の地区にとどまらない大きな展開が期待できる。

○モデル事業のポイント 小笠原における地域づくりの基盤としてエコツーリズムを浸透

○参考

平成 17 年 4 月に小笠原エコツーリズム推進協議会が設立され、ガイドの登録・認定制度の立ち上げ、保全と利用の調整等エコツーリズムの推進に取り組んでいる。